広報 おぐに
昭和44年11月15日発行
第7号
発行＝小国町役場
編集＝総務課
印刷＝小千谷市下位印刷

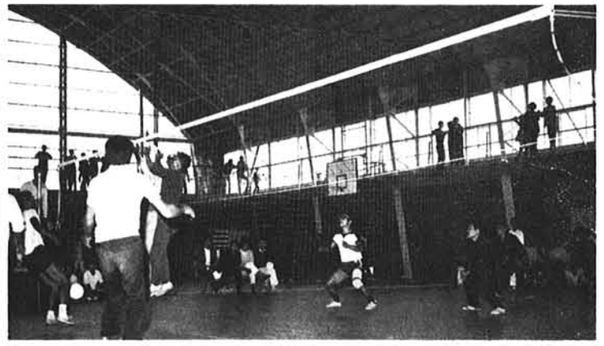
小国町の人口
男 5,661人
女 5,897人
計 11,558人
世帯数 2,565
昭和44年10月31日現在

町民排球大会終る

球技大会の秋季を飾る第六回町民排球大会は十月十九日（日曜）に小国中学校体育館で開催された。一般、職場、中学生を含む参加十四チームにより、二コートに分かれ熱戦をくりひろげた結果、柏農分校Aチーム（職員）が各回戦をストレート勝ちし、二年連続優勝をとげた。順位次のとおり。

一位 柏農分校 Aチーム
二位 小国中学校Dチーム
三位 小国町役場Bチーム
三位 柏農分校 Bチーム

婦人もバレーをバレーボールは、適当な運動量がとれ正規の競技でなければ、いつどこでも手軽にできるスポーツです。日常生活や作業中の姿勢から見てボールを上方にいたり跳び上がったりする運動形式は、姿勢の調整の上から極めて大切なことです。特に婦人においては、運動する機会が少ないので余暇を見てどんな運動でも少しづつやるよう心掛けて下さい。ラジオ体操的な手足、身体の屈伸などは一人でもできますし、二人以上何人でもボールのつき合いは楽しくできます。PTAその他の会合の後など三十分もボールと親しんでいただくようおすすめ致します。必要に応じ指導者を向けますので教育委員会に連絡下さい。



小国中が第四位入賞!!

昭和四十四年度新大学徒競書大会（第十九回）は全国的にも権威と伝統のある書道の競書大会ですが、年々参加者が増え今年は約十一万余点を数えたということです。

小国町からも、中学校をはじめ各小学校が個人、団体とそれぞれ参加しましたがこの度その審査がおこなわれ、小国中学校は団体C の部（在籍生徒五〇〇名以上）で見事第四位に入賞しました。

また高等学校の部、特選入賞として柏崎常盤高校二年竹内恵子さん（小国町大字鷲の島）が栄える第一位の文部大臣奨励賞を受賞しました。

錦鯉品評会開催さる

泳ぐ宝といわれ、万人に親しまれている錦鯉の逸品二五二点が、去る十月二十五日町営プールにおいて盛大にその美を競った。趣味から出発した小国の錦鯉も五年目を迎え、一尾五万円、十万円の売買が花を添えて、ようやく換金作目として真剣に検討され始めている。産業については適地錦鯉はお隣り主産地小千谷市があり、流通機構が完備され、技術指導も容易に得られる。更に山に囲まれた地形のため、池の候補地には恵まれているので、鯉によって経済効果をあげるための意匠と努力の積重ねによっては大きく伸びる諸条件が整っている。今回のように生活様式が合理的になり、諸作業が機械化されてくると、緊張された生活が要求されるので、どうしてもストレス解消のために「憩の場」が欲しくなる。そこで立派に成長された錦鯉のスマートな姿態、優美な色彩そして優雅な群泳に しばし世相の雑事から開放されてうっとり眺める。こんなひとときは生産者にとっても、都会人にとっても求めたいささやかな夢でもあり、錦鯉プームの要因となっており今後の見通しも明るい。鯉は池があれば誰でも簡単に飼うことができる。しかしコンスタントに利益をあげてゆくことになると未知の分野が比較的多いために、かなり不安定でもあり多くの研究課題に取組む意欲と努力が強く要求されることは確かである。品評会の入賞者は次のとおりである。

総合優勝 永見恒太

一位入賞者

一部 紅 白 小林 健一
二部 紅 白 佐々木 正次
光りもの西野 正弘
光りもの片桐 英雄
三部 紅 白 永見 恒太
三 色 小形 玄海
光りもの小形 玄海
三 色 北原 三之弘

検察審査会とは、こんな場合に

詐欺、おどし、交通事故など、被害にあって、警察や検察庁に訴えたが、検察官がその事件を裁判にかけてくれない。どうもなっとくができない。こんな不満をもっている方はいませんか？

そういう方はそのまま泣き寝入りしないで検察審査会にご相談ください。

検察審査会とは、選挙人名簿をもとにして、くじで選ばれた民間人の代表十一人の検察審査員が、検察官のしごとのやりかたを審査するための制度です。

"どんな仕事をする所か"

検察官のした不起訴処分のよしあしを審査するのがおもな仕事です。

検察審査会はそのために検察官のつくった不起訴記録を調べたり、必要に応じて証人を呼んだり、場合によっては実地見分などもして議決します。その議決を参考にして、事件を起訴すべきだと考えたときは、起訴の手続きがとられます。

"事件を審査して もらうには"

犯罪を告訴、告発した人や犯罪によって害を受けた人で、検察官の不起訴処分に不服のある方は、だれでも審査の申し立てをすることができます。

申し立てには費用はいりません。

申し立ての手続きについては、検察審査会の事務局におたずねください。

住所は
長岡市信濃二ノ六ノ一
電話長岡(0)二一一四一

新潟地方裁判所長岡支部内
長岡検察審査事務局

銃砲刀剣類登録審査会

銃砲刀剣類は、登録しないと所持していても法所持として罰せられます。

もし家の改築などで発見された方は、まず発見届を警察に出します。受理されたら、県の教育委員会に登録の申請をして下さい。

羽根郡の登録審査会は、次のとおり開催されますので手続きのしてない方は、早目に用意して下さい。

用紙は町の教育委員会にあります。

登録審査会 日程
十一月二十日十時～十五時
場所 柏崎市中央公民館

持参するもの
警察より受けた発見届受理証
登録手数料 四百円
印かん
持参する刀剣類は包装に充分注意して下さい。

米づくり小国一、決まる

小国町近代農業研究協議会主催の本年度米多収穫競作会の審査会が去る十月十五日開かれ、今年の成績がまとまりました。

今年の米多収穫競作会は二十部落から六十七名の出品がありかってない盛況ぶりを示しました。

審査の結果はレイメイで七一五・二キロ（約十二俵）を穫った三桶の山岸隆治さんが今年の米づくり小国一ときまりました。

三位までの入賞者はつぎのとおりです。

一位 三桶 山岸隆治
レイメイ七一五・二キロ
二位 相野原 五十嵐熊一
レイメイ七〇五・六キロ
三位 相野原 田中一正
相野原 山岸栄一
レイメイ六六二・四キロ
相野原 田中久子
フジミノリ六六二・四キロ
上谷内 池島実
レイメイ六五二・四キロ
相野原 田中久子
フジミノリ六六二・四キロ
上谷内 池島実

▽…産米出荷量…△ 八七・三四〇叭 数量、等級共に 昨年を下まわる

十月末日までに出荷された今年の産米は昨年の同期を四、九一七叭（五・四〇%）を下まわる八七、三四〇叭となりました。

また、等級別では三等以上の上位等級米が昨年にくらべて一、一六七叭も少なく、逆に四等以下は六、二五〇叭も多くなっており品質が大巾に低下した結果となりました。

日本海 六五〇・四キロ
上谷内 峯村利夫
レイメイ六五〇・四キロ
原小屋 嶋田義栄
コシホマレ六五〇・四キロ
上岩田 大久保幸雄
レイメイ六四五・六キロ
相野原 田中ちえ
日本海 六四五・六キロ

産米等級別出荷状況（食糧事務所調べ）

	1等	2等	3等	4等	5等	等外	計
今年	11	12,257	54,776	19,667	629	—	87,340
昨年	113	21,524	56,574	13,537	408	108	92,257
増減	△102	△9,267	△1,798	6,137	221	△108	△4,917

いずれも10月31日現在の出荷数量（単位叭）

戦没者等の遺族に対する特別弔慰金の請求について お知らせ

昭和十六年十二月八日以後戦没の軍人軍属には、その遺族に対し弔慰金が支給されましたが、その後再婚したり成人したり死亡して昭和四十年四月一日には遺族年金や公務扶助料を貰う人が、だれもいなくなった戦没者に対して、残された兄弟姉妹などに特別弔慰金三万円の国債が支給されております。

請求手続きは役場（住民相談室）で御世話いたしますが、いろいろ細かい規則があるかどうか法律もたびたび改正され、個々に調べてみないとわかりません。そこで次の方は、とりあえず申し出てみて下さい。

記

一、戦没後弔慰金（五万円又は三万円の国債）を受けた者で昭和四十年四月一日には遺族年金も公務扶助料も誰も受ける遺族が居なくなった。

二、しかし戦没者の兄弟姉妹が現在生存する。

三、この戦没者とは昭和十六年十二月八日以降の戦没者であること。

四、昭和四十年以後一度特別弔慰金を貰った人は請求出来ません。

小千谷地震説

四十三年十一月、東大地震研究所の宮村摂三教授は小千谷市付近の地殻調査の結果「数年以内に震度四程度の地震が起きる可能性がある」と発表、地元をはじめ県内関係者などに大きなショックを与えた。

同教授は東北日本の第三紀層の一部が、現在でも沼（しゅう）曲活動をしていることに注目、地震との関係をつきとめようと、伏田県米代川下流、山形県小国川流域、それに小千谷付近の三ケ所を選んで詳しい水準測量を行なった。小千谷付近では一九五八年（昭和三十三年）に十三点、一九六七年（昭和四十二年）に二十二点、昨年（昭和四十三年）は二十七点の水準点を設け、刈羽郡小国町の渋海川沿い、小国郷から信越線塚山駅——来迎寺駅付近小国町から桐沢峠——小千谷市桜町へかけての土地の傾斜を調査した。その結果、年間最大百万分の一以上の傾斜が、現住もなお続いていることをみつけた。

これだけのエネルギーが蓄積され、いつまでも破壊しないとは考えにくい。近くは関原地震（一九二七年）や長岡地震（一九六一年）が習曲活動に伴う地震と考えられる。ところが小千谷付近では一九〇二年（明治三十五年）、一九五一年（昭和二十六年）に地震の記録があるだけ。そのぬ変動の進みぐあいから近い将来に起こる可能性があるという結論を出した。

しかし習曲活動は比較的浅いため、もし地震が起こるとすれば震源は深さ二キロ程度、規模にしてマグニチュード五・五ほどとはじき出した。（参考までに新潟地震は震度五度の強震、局地的には震度六度の烈震震源地の深さは四十キロメートル）

またこれとは別に同地震研の笠原慶一教授は、小千谷市山本山を基点に光波測量を行ない、水平距離でどの程度土地が伸縮したかを調べた。これは四十三年十月に第一回、四十四年四月に第二回の測量を行なった結果、川口——山本山の間で十二ミリマイナス（縮み）山本山——山寺間で十七ミリのプラス（伸び）山本山——小国峠で三十四ミリのプラスというデータを得た。この値について笠原教授は、十数ミリの変動は測定誤差範囲にはいるが、小国峠の三十四ミリは明らかに土地が伸びていたといえるとしている。

しかし「変動はあるが、この数値で見る限りでは危険を積極的に強調するほどではない」と、宮村説を異にしてふだんから練られている防災計画にもとづいて、行政機能をその災害の規模と性質にあわせて切りかえることを基準するものであります。このような趣意によりわが小国町にも当然防災会議が設置されており、時に応じて会議をもち非常災害の発生に備えてはおりますが、これはいままでの例ですが県はもとより、各市町村では この防災対策の対象としては出水、豪雪、台風、大火災ぐらいのもので、百年に一度あるかなしの地震災害については はあまり考慮がなされていなかったのが現実でした。しかし新地震というささに想像を絶した大災害の教訓により、地震が防災計画の中で大きな比重を占めることになりました。また小千谷地震説が唱えられている昨今、わが小国町の防災会議の防災計画、対策体制はこの一点に最大比重をかけているといっても過言ではありません。といって他の風・水・雪害等についておろそかにしているということではありません。

小千谷地震説が唱えられた当時新潟市では抜き打ち訓練を何回となく実施して災害に備えたということが、一年二年と何事もなく過ぎると何時しか、新潟市民の関心も薄らぎました。

災害は忘れたころにやってくる。それから十六年、まさしく新潟県が全くこの越後地震説を忘れた三十九年六月、新潟市を中心とするあの大地震が起こりました。この報をきいた中村博士は、当時の予測は失敗であったとしても七五%は当ったことになると語っていたそうです。

この度の小千谷地震説も私達のいちばん知りたいつ起きるのかということが今のところ明確にされていません。それだけに、かえって不安なことでもあります。「日本で地震の起こる可能性の薄いところは北海道の北だけ」（東大地震研究所、萩原尊礼教授）ということであるところから、日本中どこでもいつ起るかわからぬ地震におびやかされているわけです。

しかしといっていたずらに神経質になることは日常生活に支障をきたします。要は「備えあれば憂いなし」の気構えが肝要ではないでしょうか。

例えば

○災害時の避難場所を家族と充分話し合っておく。

○老人、子供の寝室は外に出やすい部屋を選ぶ。

○不測の停電に備えて非常用照明器具（ローソク・懐中電燈等）を備えておく。

○降雪期には、屋根の雪おろしにより出入口がふさがらぬよう注意する。なお家の出入口は冬でも必ず二ケ以上あけること。等。

この他細かいことはそれぞれの条件でいろいろあることでしょう。

町としても地震に限らず各種の不慮の災害からみなさんの尊い人命、貴重な財産を守るよう、防災はもとより災害発生に対する活動体制の確立と強化に不断の訓練を行なっています。

すでにご承知のとおり、災害が発生すると、どこでも災害対策本部ができます。それ以前に国・県・市町村のいずれにも災害対策基本法の定めるところにより防災計画が設置されています。

対策本部の設置は、つまりこうしてふだんから練られている防災計画にもとづいて、行政機能をその災害の規模と性質にあわせて切りかえることを基準するものであります。このような趣意によりわが小国町にも当然防災会議が設置されており、時に応じて会議をもち非常災害の発生に備えてはおりますが、これはいままでの例ですが県はもとより、各市町村では この防災対策の対象としては出水、豪雪、台風、大火災ぐらいのもので、百年に一度あるかなしの地震災害については はあまり考慮がなされていなかったのが現実でした。しかし新地震というささに想像を絶した大災害の教訓により、地震が防災計画の中で大きな比重を占めることになりました。また小千谷地震説が唱えられている昨今、わが小国町の防災会議の防災計画、対策体制はこの一点に最大比重をかけているといっても過言ではありません。といって他の風・水・雪害等についておろそかにしているということではありません。

この会議で充分討議、研究された計画に基づき、万一非常災害発生の場合はその規模に応じて小国町何々災害対策本部が設置されるわけです。

しかしこのような非常時体制と組織が確立されていても、すわ！！という時その機能が発揮できなければなんにもならないわけですがこれには住民のみなさんがたの積極的なご協力が必要とされることはいうまでもありません。災害に対して組織による訓練も必要ですが、個々にあってもふだんから非常事態に対応できる心構えをなし、万一に備えひとたび災害発生の場合には、対策本部の指示に従い適格なる行動により、被災を最少限にくい止めるようにいたしましょう。

（防災訓練の役場職員）

昭和四十四年度 農業祭 開かる

小国町近代農業研究協議会主催の昭和四十四年度農業祭が十月二十九日に小国町中央公民館で関係者多数参加のもとで盛大にひらかれました。

農業祭は近代農研の五十嵐能一会長の挨拶にはじまり小国町長（助役代理）、小国町農業共済組合長の祝辞につづいて今年の米づくり小国一を獲得した三桶の山岸隆治さんが体験発表をしました。

引続いて表彰式にうつり多収穫競作会の一位から三位までの十名と十アール当り六〇〇キロ以上の成績を収めた十九名に表彰状と記念品が贈呈されました。

記念講演は「今年の稲作について」と題して県の農業専門技術員が約一時間半にわたって今年の気象と稲作について講演されました。

最後に懇親会に入り県の農業専門技術員をはじめ来賓と参会者がヒザを交えて談笑し、有意義なひとときをすごし、終了しました。

昭和四十四年度 秋期火災予防運動の 実施について

火災予防については日頃格別の御注意を払われておられることを深く感謝致します。

今年の県下の九月末迄の火災件数八九七件を数え昨年同期に比し九七件の増となっております。併せて火災による死者（九月末）二十九人を数え、昨年一ケ年わった状況にあることは真に憂慮に絶えません。

当町は先般落雷により一件の火災を発生しましたが幸い死傷者もありませんでしたが、福災者家庭には心からのお見舞を申上げます。

これから冬期にかけては気象的悪条件も加わり、又一般家庭において火を使用する機会が多くなる等のため出火率の高まる時期となりますので万全の火災予防体制の確立を図る目的から秋の大災予防運動が県下一斉に行われます。当町もこの目的に随い秋期火災予防運動を実施致しますので格別の御協力をお願いします。

一、目的
この運動はこれからの火災多発期を迎えるにあたり町民と共に防火意識の向上をはかり、火災発生防止と人命損傷事故の絶滅を期することを目的とする。

二、期日
十一月二十六日から
十二月二日まで

二、重点実施事項
(1)火災による死者の発生防止
(2)たばこの投捨と寝たばこ防止
(3)石油ストーブとガス等の正しい使い方
(4)多数の出入する防火対象物における消火避難訓練の実施
(5)消火用施設の点検及び使用の調練